

フレーベル著

『リナは如何にして読み書きを學ぶか』(三)

——楽しく忙しく動く子供達のための美しい物語——

莊 司 雅 子 譯

このようにして可愛い子供をもつと喜ばせてやりたいという父の希望も高まつて來た。併し、一冊の本を自分のものにするということより以上に子供を喜ばせ、子供に多くの樂しみを與えるものがあるだろうか。たといその本の内容に關してはまた何も理解出來なくとも、それを部屋隅の隅に持つて行き、逆さにしては實に不思議さうに色々想像してみたり、その本の中から自分の發展に相應しい努力で湧き出る内的なものを讀み取つたり見出したりするのである。

この體驗或いはこの思い付きが實際に娘のことを想い、そして愛撫したい心に満ちている優しい父に、遂に次のことを決心させた。(「彼れの不在が豫定よりも長引いたので」)即ち家に宛てた次の手紙と一緒に讀き書き入門書(Fibelbuch)と繪本(Bilderbuch)と子供の本(Kinderbuch)とを送る

ことである。此等は彼が或る友人の家庭で偶然見附けたものであつたが、それは發展的な教育的なもので、而も同時に喜びをも與へるものだつた。而もこの點に就いては特に友人から推薦された。

父の本とそれについている手紙とが、捺印された包紙から現われて來た時、また母が、「ごらんなさい、リナちゃん、これはお父さんからリナに來たものよ。きつとりななお手紙でお父さん嬉しかつたのでお父さんもリナを喜ばせようと思つて送つて下さつたのですよ」と、言いながらそれを渡した時、思ひもかけなかつた少女の眼は早くも驚きと喜びとで輝いた。

ほんとに喜びと幸福とに満ちに胸を抱いて、リナはすぐ近くの窓に歩み寄つた。そして、優しい父からの手紙を讀んだ

り、美しい本を眺めたり、またその本の中の方をめぐつたりした。

丁度その時、何時ものやうに思いやり深い叔父が部屋にはいつて来た。(それは丁度食事の時だった) 非常な喜びでリナは叔父を迎えた。そしてその美しい贈物を持つて叔父の方へ手や腕を差し伸ばしながら——「見て御覧なさい、叔父さん、お父さんが私に何を送つて下さつたか！」と言つた。そして今度は叔父をテーブルの方へ引つばつてつた。叔父は其處で一瞥した後、リナに本の繪を説明してやつた。

このようにして喜びを興えるもの、喜びを受けるもの、そして喜びを共にするものから成るこの幸福なささやかな集ひの中を、旅行中の父の心——全く眼には見えないが、併し眞に愛撫に満ちた——が或る全く特殊な精神的な表はれで融け込み、それに依つて、何かお祝ひでもしてゐるやうな畫食になり、それが午後の時間まで晴々としたものにした。

ところが優しい叔父は仕事が待つてるので、この楽しい集いを立ち去らねばならなかつた。家庭的な母も家事のことがあるのでやはり部屋を出て行つた。それでリナは新しい友達である本と一緒にひとり取残された。彼女は我を忘れて繪を見つめるばかりだった。リナはそれを見ながら、先づ第一に親切な叔父が話してくれたことを思い出そうと試みた。その次にはその中で自分の力で見出した生き生きとしたものを附け加えた。併し暫くしてこのやうなことはやめて、今度、本を手にして考え深そうに立つた。彼女の環境の集いから得た

豫感と體驗、特に母の生活と行動とから得た豫感と體驗とはリナにこんなことを語つた。——ほんとに若し私に此處に印刷されてる文字が解かり、またその文字で語られてることが讀めたなら、この本は私にその美しい物語りを話してくれることが出来るでしように。リナは自分が今まで簡単な眞直ぐな線やただ圓く曲けられた線で書いて來た文字と此處に印刷されてる文字との間の相似たところを見附けようと一生懸命だつた。そして實際見附けることが出來た。特に大文字の間にところどころ似た字を見附けることが出來た。とはいへ、實際はそれほど正確に印刷文字の中に自分の今まで描いて來た文字を認めることは出來なかつた。

このようにして欲望と豫感と搜索と希望とのうちに時が過ぎ、夕暮がやつて來た。というのも母親は——自己の幼年時代や青年時代の體驗に教えられたことであるが——吾々が後で解かるやうに、善き先見の明でつまり眞實な養育的な發展的教育的な心と子供の幸福のための目的とで——たとい子供から離れていても、また子供から遠ざかつていても、母はこの時代の子供の魂の中に、どんなものが活氣に満ちてゐるかをよく知つてたから、リナを本と一緒に獨りで長く居させたのであつた。さてリナが待ち焦れていた母が部屋にはいつて來た。母を見るや、リナはすぐに飛んで行き、悲しうな聲で言つた。「ねえ——お母さん、私はお父さんの手紙に書かれてゐることはほんとに讀めるのですけど、でも本に印刷されたものも讀めればどんなによいでせう。——だつて本にある文

字はお父さんから来たものや、お母さんが教えて下さった通りにリナが書いたものとは、まるきり違ふんですもの。」——「いいえリナちゃん——そんなにまるきり違つたものではありませんよ。ただ一生懸命に印刷文字を勉強しなへすれば、きつと間もなく両方の間にはほんに少しの違いと變りしかないことに気がつくでしょう。而もリナは、それがらくに解かり、らくに憶えることが出来るでしょう。こうしてリナはちぎに二つの種類の文字の間に全く同じものを見附けるでしょう。つまり今までリナの書いたものと、そしてお父さんが下さつたお手紙のものとそれから本に印刷された文字とは全部同じものだといふことが解かるようになるでしょう。」

「ええ、お母さん、そのような文字がもう、少し見えましたわ。それでもそれは丁度蛇のようにとても曲りくねつた線が澤山あつて、どこから来たのか、また何を意味してるのか、それについてどうしていいのかわからぬ、さつぱり解からないんですもの。」

「ところが、リナちゃんよ。もうぢき解かるようになりますよ。ただ眞直ぐな線と、このようにくるくる曲りくねつた蛇のような線とがどんな關係になつてるか (のS) またこれらの曲りくねつた文字にある一番細い一寸した線でも、決して役に立たないものでもなければ、思いつきのものでもないといふことが、そうすればリナは、やすやすとこんな文字が印刷されてるその本の中から、リナが今まで書いてた文字を見付け出すことが出来るでしょう。」

「ねえ、ねえ、お母さん、それを教えて頂戴。」

「ええいくらでも。ただリナはさつきお母さんにこんなことを言つたわね。リナちゃんが今まで書いてたいくつかの文字と、本に印刷されてる文字との間に似たものが見附かつたつてことを。ただそれが完全に一致してゐるかどうかはまだはつきりしないだけのことね。では其等の文字をお父さんの手紙とその本からお母さんに見せて頂戴！」

そこで子供はDとD、BとBといふ文字その他二三を見せた。

「ほんとにその通りです。」と母は言つた。今までリナちゃんが使つた文字と、本に印刷されてる文字との間に似てゐるものは先づ大體大文字に現われてます。けれども此等はほとんど今リナちゃんが見せてくれた通りです。

母さんはリナちゃんが見せてくれた二つづつの文字の間の似てゐるところや、一致してゐるところを教へて上げたいけれども、もうこんなに遅くなりました、けれどあかりをつけるほど暗くはなつてません。ですからお母さんが仕事をしてくる間好きになつてしまつしやい。そしてそのうち一緒に色々お話出来る時間が来たら、何か或る物語りをして上げましょうね。それにあかりがいたら約束した文字の間のつながりを教へ上げましょう。」

「はい、物語りをして下さいね、お母さん。ここに椅子がありますよ、お掛け下さいね！」

「ねえ！ リナはこんなことを知つてるでせう。リナが未だ書くことが出来ない前に、いいえ、書くことについて未だ何

も知らない以前でさえ、もう澤山のこと而も長いことリナの人形とお話しながら遊んだり、お父さんと叔父さんと私とお話したりしたことを。それと同じようにもう大へん長い間この地上に生きてる人々も色々のものにかこまれて、そして其等に話しかけたり、特に其等とお互いに話し合つたり、いいえ時にお前がするようにほんとに全く自分ひとりで獨言を言つたりしたのでよ。彼等はまだ書くことが出来ない前に、いいえ書くことについてまだ何も知らない以前に、だから書くことを見附ける前に、またそれを考え出すより前にもうさうだつたの。

けれど書くつていふこと、また書くことが出来るつていうことは一體どんなことでせう。一寸考えて見ましようね……さあ私が次に言うことが正しいかどうか、リナは自分の考えや實際に生活したこと等について試してごらん下さい。——書くということは、耳に聴えるがすぐ消えるような音や響きを、眼には見えるが併し無言で沈黙している長続きする記號にするのを言うのですよ。或いは消えていく音にいくらたつても變らない記號や圖を置くことです。」

「ほんとによく解かります。」とリナは答えた。

「丁度私達がしているようなことですね。例えばお母さんが私に私の名前と愛する親しい言葉である“Mutter”（お母やま）や“Vater”（お父やま）を、初めは正しく發音し次には無言の小さな棒片で並べ、最後には描き、そしてとうとう書くことを學んだように。」

「全くその通りですよ。こうしてリナは同時に人生の大きな事實に氣づくことが出来ます。つまり人は言われたことや教えられたこと、いいえ、ただ語られたすべてのものをたとい違つた方法であつても、若しそれを何處かで自分の生活のなかで體驗するならば、つまり外への行いや心のうちでの觀察に依つて體驗するならば、尙一層、よく理解出来るつていうことを。ですからね、リナちゃん。リナは自分のすることと、他人のすることとをよく見、そしてそうすることに依つてはやく今からでも幼年時代の生活の中で澤山のことをするように努めてごらん下さいね。そうすればリナが出會うもの、リナが見たり聴いたりするすべてのものを、リナは愈々よく理解するでしょう。そのことは今に證明されるでしょう。さあお聴きなさいよ、お母さんが話そうとすることを。人々はこんなに傳えているのです。人間が未だ書くことが出来なかつた時、（即ち言葉の一つ一つの音や響き等に對して何等しつかりした一定の無言の記號を與えてゐない時、即ちその記號に依つて留守している人が語つたことを再び聴くことが出来たり、或いは書いた人が考えたことを再び回想したりすることが出来るようなそんな記號）或る草の茂つてる島で羊の世話をしていた一人の羊飼が書くことを發見し、工夫したそうです。またこんなことも言つてます。羊飼達はほんとに澤山のものを見ましたと。例えば萬能の神様に對する人々の心や感じを高めるような輝かしい星の觀察と知識とを。この星空の中でそしてこの星に依つて彼等は神様への感謝と賞讃の

言葉の記號を見つけたのです。

ごらん、一人の羊飼がこのようにして字母書法 (Buchstaben-schrift) —— 象形文字の反對 —— また所謂文字というものを發見したのです。これで私達は今自分の生活の體驗から次のようなことが解かるでしょう。即ち何とこんなにも澤山の立派なものの發見と工夫とが羊飼に負うてるかつていうことが、私達はこのことはほんとのことだと信じてよいと思いません。ねえ、この間美しい山腹を散歩した時、こんなことを見ませんでしたか。羊の世話をしている羊飼がお仕事の時、何時もその家畜の群を一つの全體として看守つていたことを。一匹一匹の羊、いいえ一番小さい仔羊でさえも全體の大事な一人としてこれを看守つていましたね。そしてこのようにして何時も全體に就いて、また全體の目標であり目的である生命を育むということを考えてみました。ごらん、だから一人の誠實な羊飼は羊の群を集めながら他の一切のものにおいても、(例えば獵人や漁夫に) 見たところ分離しているけれど統一してゐる一つの全體として、そのものを見ることを學び知るのです。

このように昔々外國に一人の淋しい羊飼がいました。彼は自分自身に話しかけたり自分自身と一緒に話したり、自分一人でそれを聴いたりしました。恐らく初めは留守中の親しい人の名前を言つたでしょう。丁度リナには今お父さんのお名前が一番おなつかしいように。そのような名前がきつと彼れの心に響いたでしょうね。またきつとコダマが再び彼に響き

返つたでしょうね。そしてこのようにして彼れの聰明な心と思いに耽ける精神とが容易に彼れのなつかしい言葉の中の色々の違つた音を見出させたでしょう。丁度私達が前に私達の親しい名前であるリナ (Lina) とお母さま (Mutter) とかお父さま (Vater) とかの中に見出したように。

ところでリナも知つてゐるように私達は私達の度々の旅行で柄の曲つた杖を持つた聰明でよく働く羊飼達が、家畜が彼れの周りで草を食べたり、彼を取り巻いて横たはつてる間に—— 心の中に生き生きと動いてゐるものを綺麗なる形で芝生の間に掘り込んだり、或いはその上に書いたりしてゐるのを見ただしう。

私達の物語に出て来るあの聰明な冥想的な羊飼もきつと自分に響いてくる色々の音響や外に於て捕えられたものに、はつきりした符號を求めたでしょう。そして彼れの素直な手は彼れの心の求めるものを恐らく聲高く語る口の運動の中において受け取り、それを謂わば知らず識らずの中に、自分の前の平地の上に描き込んだり掘り込んだりしたでしょう。實際私達はまた他のところでもこんなことに氣がついていましたね。心の中の考え深い精神の動きは外に物を表わすという、謂わば創造的な働き—— 主として手や指の働き—— と互に知らず識らずのうちに關係し、屢々同じ一つの働きになるものです。ですから考え深く注意深くまた思いに耽けり勝ちな人は、若し何か長いものでも持つと、例えばある棒でも持つと何か思いに耽りながら、また考え深そうにものを聴きながら

知らず識らずのうちに始終その棒で自分の前の地面に描き込みます。いいえ、その地面に彼れの色々の印象を掘り込みます。このように掘り込んだ符號や形は、大抵直線かせいぜい簡単な曲線ぐらいでしょう。

それはきつとこんなことでしよう。私達が一緒にしたように違つた種類の音に應じて口も違つた状態になることに原因しているのです。そのことは、私がリナに書くことを教える時、iやoやaの音を出す時、口の形が變つて來たことに氣がつかましたね。

ですからリナ!! 私達が前に言つたようなことはほんとのことと思つて見ましよう。即ち今から數千年前に私達から遠く離れた國で、或る一人の羊飼が初めて文字や活字を發明したことを。そしてそれが求い年月を経て遂に彼の國から吾が國にも入り、そして私に傳わり、私が更にリナに傳へることになつたのです。ただこの旅行がまた多くの國々や人々を通り、永い年月を経ている間に、色々に變化されたと思ひます。ですから若し私達が羊飼に出會つた時には何時でも尊敬する氣持でその傍を通らなくてはなりません。少なくとも出會つた時には次のように考へなければならぬでしょう。このように人は獨りでおるような寂しい時間でも、ほんとによく近くのを思慮深く觀察したり——ここでは羊飼が獨言するよように——またそれに就いて較べながらよく考へたりすることに依つて何と有益なものを見出すかつていうことを。また果しなき年月を通じて喜びを興えてくれるもの、

いいえ子供にも大人にもためになり、幸いを齎たらすようなものを考へ出すことが出来るかつていうことを。ただ今までもうこんなには澤山リナを喜ばしたような書き方と、やがて間もなく同じようにリナを喜ばすであらう讀み方とに就いてだけでも考へてごらん。ですからリナがこのようにして時々書いたり或ひはこれから讀んだりする時、たとえリナが一人ぼつちでいる時でも、何時も書き方や文字を見出し、それに依つて讀み方を教へてくれたあの羊飼のように、時間をよく使うように考へなければなりませんね。

あらまあ二人とも氣が付かないうちにすつかりこんなに暗くなつてしまいましたわ。さあリナちゃん、あかりを用意しておいで。お母さんは今日はずう外に特別の用もありませんから、残りの暇の時間をもつとリナのために使ひましよう。そしてリナが自分の本に就いて理解したり讀んだりするために、リナが望んでいたり求めていることを教へて上げましよう。つまりリナが今迄書いてた文字とリナの本の印刷文字との關係を教へて上げましよう。」

長い深い溜息をしながらリナはほんとに今まで知らなかつた多くのものが心に目覺めて來たということを言ひながら、母の言いつけを果すために出て行つた。

あかりを持つて來ると、あたりの感じはずつかり變つた。リナの氣分もそれと同じように變つた。嬉しそうにリナはあかりを持つて部屋にはいつて來た。そしてそれを机の上に置くや否や、彼女は早くもこんなにも大事にしている本、彼

女に尙も多くの喜びを持つて来る筈のその本を取りに走つて行つた。

「いらつしやいませ。お母さん、おかけなさい。此處に本があります。さあその本の文字が、解かるように教えて下さいね。」

「ええ喜んで教えて上げますよ。ただお父さんからのお手紙を一枚参考として持つていなければなりません。リナは生まれつき器用さと綿密さと完全さとを有つてゐるから仕合せです。其等のよい性質を使つて、本の文字をリナの今まで書いてた文字と較べてごらん。さあ今まで書いてた文字よりもずつと完全な此等の文字を私達はもつと較べて見る必要があります。」

ではお前のお父さんのお手紙の中のIという字と、本の中に印刷されてるIといふ字とを較べてごらん。どう見えますか。

「Iこのは全部眞直な線ですが、そのはみんな曲りくねつた蛇のような線ばかりです。またこのは長い大きな垂直の線ですのに、そこは垂直の方向に曲つた大きな線です。またこのは二本の短い並行の水平線ですけど、その水平の狀態に曲つてはいますけど、併しその曲りのうちにも並行している二本の線です。ですからIの中の水平に並行している眞直な二本の線は、水平に並行してはいても曲りくねつてゐる線とは反對になつてはいますが同じものです。ただ少し違ふところがあるようです。眞直に並行している二本の線は垂直

になつてゐる主線を趣えて兩方の側にありますが、もう一つの並行してゐる曲つてゐる線はただ左側に伸び出してゐるだけです。

「ではリナはIとIとを較べて見て一體何を見つけたか、リナちゃん。」

「兩方ともお互いにすつかり同じものですけどただ初めのは眞直な線で、次のは曲つてゐる線であるところが違ふだけです。」

「そう、では今度はFとFとを見て見ましよう。さあどう見えますか。」

「やはり前と殆んどすつかり同じものが見えますわ。ただここで上の水平に曲つてゐる線がFでは更に垂直に曲つてゐる線を越えて兩側に延びたままです。またIの下の水平の線はFでも水平の方向にあつたのが、Fでは更に垂直の狀態にあることです。ですからFとFとの二つの文字は今の二つの少しの違いがあるだけで、もとはお互いすつかり同じものですね。」

「全くその通りですよ。リナちゃん。ではもう一度今までリナが既に気がついてたLとLとの、二つの文字を較べてごらん。そしてこの比較がお前にどんなことを示すか私に話して頂戴。」

「FとLとはもとは互いにすつかり同じです。ただ逆になつてゐるだけです。Fで上になつてゐる線はLでは下になつてゐるだけのことです。また逆にFの下にある線はLでは上にあります。またLの眞中にはFが特に記してゐるような三角形はありません。ですからFとLとが同じほどに回轉すれば小さ

い鉤を除けばお互いに同じです。」

「ではもう一度全部を較べながらそれぞれ調べて見ましようね。リナよ、三回あけて来たこの形の違ふ文字が、たとえ二つの間に違ふところがあつても、そこには一致したものがあつたのですけど、更にこの三つの各々の種類を通じて何か同じもののあることに気がつきませんでしたか。」

「はいお母さん、それはもう前に私達が話したことですけれど、第一種の文字で線の眞直になつてるところでは、第二種では何時もそれが曲つてること、時々その位が少し變つてることです。でもお母さん御存じではありませんか。TとSの文字などは一番よく似てゐるつてことを。第一、初めの方では眞直になつてゐる線は第二の方では簡単に曲つてゐるだけでしょう。」

「なるほどね。ところでお晝頃リナはお母さんに言いましたね。BとBとが似てゐるつてことを。どかが似てますか。」

「ああお母さん。お母さんの方がよく知つてらつしやるのに、してもつと上手におつしやれるのに。先づ第一にBの眞直ぐな線はBではやはり曲つてゐるつてことです。ただ前の文字との關係ではBの中の眞直ぐな主線はBでは蛇のように、或いは二重に曲けられないで、ただ簡単に曲つた線が出来てゐるのです。そしてBで丸く曲つてゐる線はBではもつと異つた曲線になつてゐます。またBの上の小さい水平線はBでは低く曲つた線になつてゐます。下の水平の線は併しBの時のようにほとんどに蛇のように曲つてゐます。」

「リナは此等の似た點を見出したから、RとR、KとKとの間の似た點も容易に見出せるでしょう。」

「はいほんとにすぐ見出せますわ。BとBとを見れば教えてくれますよ。」

「さあ、では今日はこれぐらいにしましょう。明日若しお母さんに時間がありましたらまた續けましようね。明日までにリナはお父さんのお手紙を傍において、そしてリナの本の中の残りの大文字を探し出したり、それを學んだりしておくといひでしょう。」

「リナがそれを澤山知れば知るほど、お母さんはそれだけ嬉しいのです。また叔父さんがお晝歸つていらした時、叔父さんもきつとどんなにお喜びになるか解かりませんからね。」

「ではお母さんはお夕飯の仕度をしますから。」

リナは前の晩にその大事な本のことを考えながら床にはいつた時と同じように、翌朝も本のことや、本の中の親しい文字のことを心に懐きつつ、そして先づ第一にまだ残つてゐる大文字を見付けるようにという母の希望を心に懐いて起きて来た。

(つづく)

### 保育歌曲譜訂正版

先に全國保育連合會において制定した保育歌「花のおさなご」の歌詞並びに曲譜を本誌九月號(第四八卷、第九號)に収録いたしました。曲譜中若干誤りありましたので、その訂正新版を、本誌の三八、三九兩頁に重ねて収録いたしました。